

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 15 日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

漁村の住宅地にある開設二年半になるホームである。地域住民や親族、友人のつながりが大切にされ、利用者は馴染みの散髪屋に行ったり身内の葬式に参列する等今までの生活習慣が継続され、地域の一員として暮らしている。管理者は地域の医療や福祉との連携にも力を入れている。家族と一緒に料理を作って100歳の利用者をお祝いしたり、夜間や看護職員も複数体制が取られている等、今後に期待したい地域に密着したホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） ①理念の共有化、②改善課題への取り組み等があげられ、理念を携帯し定期的に振り返ったり、防災時の持ち出し品を確認する等それぞれ改善してきた。③実態とそぐわない諸規定の改善、④二ヶ月に一回の運営推進会議の開催は継続検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 二ヶ月間かけ、常勤やパート職員全員で自己評価項目に沿って自分たちが行っていることを出し合い、管理者がまとめあげた。職員は評価活動を通じ職員全員でケアのあり方等共有できる場にもなったと意義を理解している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） ホームのサービス向上や地域機関との連携、介護保険外サービスとして職員による独居世帯の巡回等が議題として検討され運営にも活かされているが、推進委員の都合で会議が延期されることが多く開催回数が少ない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 近隣の利用者が多く面会も比較的多い。面会時やケアプランの見直し時に意見や要望を聞いているが、率直に意見を出す家族もいる反面、ほとんどの家族は意見を出されない。出された意見は運営に反映している。
重点項目③	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の清掃や祭り、学園祭等地域の催しにも積極的に参加している。野菜や魚等の差し入れもあり、散歩途中で軒先で休憩したり、友人宅でお茶を飲んだり、時には墓参りや身内の法事に出席する等、利用者は地域の一員として生活している。

【評価実施概要】

事業所番号	3272200597		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと工房		
事業所名	グループオーム 和水屋		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町中村森4、1542-1 (電話) 08512-4-0091		
評価機関名	しまね介護ネット		
所在地	島根県白湯本町43番地		
訪問調査日	平成20年6月13日	評価確定日	平成20年7月2日

【情報提供票より】（平成20年 6月 6日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	14人	常勤3人, 非常勤11人,	常勤換算4.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～ 全階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	34,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月6日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名	
要介護1	3名	要介護2	2名			
要介護3	1名	要介護4	1名			
要介護5	要支援2					
年齢	平均	91.1歳	最低	86歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	隠岐の島町国民健康保険中村診療所
---------	------------------

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念を全職員で見直し、分かりやすく3つに分割表示した。理念に地域密着型サービスについて触れてないが、運営規定等には明記されている。	○	日々実施している地域で暮らし続けるための支援を、誰にでも分かるような表現で理念に盛り込んで頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎月の職員会議で確認している。名詞大に印刷した理念を「振り返りの文言」20種類のカードと共に携帯し、毎日の業務の中で振り返りに活用している。	○	利用者の権利を明文化して頂きたい。日頃の支援の実際や考え方とそぐわない表現があり、禁止用語と共に見直しを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃や草取りをはじめ、祭り、学園祭等に参加している。野菜や魚、花の差し入れがあり、隠岐民謡や三味線、話し相手等のボランティアもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	二ヶ月間かけ、全職員で行っていることを項目毎に出し合い、管理者がまとめた。昨年の外部評価を踏まえ、防災時の持ち出し物品を確認しあう等改善に取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域機関との連携や情報の共有化、介護保険外サービスとして職員による独居世帯の巡回等が検討され運営に活かされているが、開催回数が少ない。	○	毎月サービス事業所連絡会に参加し関係機関の連携に努めているが、運営推進会議の果たす役割を再確認し、定期的に行なえるよう委員に協力願いたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とともに地域の公民館で行う講演会等を計画したり、管理者自ら認知症の講師もし啓発活動も行っている。認知症ケアの情報も提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や受診した後、状態に変化がある場合をはじめ、利用者の誕生日前の一年間の状態の変化等も報告している。家族に向けたよりは発行していない。	○	計画されている和紙屋たよりの発行に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の考え方を説明したり、ケアプランの見直し時に意見を聞いている。意見や要望を出す家族もいるが、あまり意見は出ない。意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時には利用者全員に紹介している。緊張されないようさりげなく対応したり、職員が利用者やケアに慣れた段階で夜勤に入るよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修後は職員会議の場で内容を伝達している。管理者は「考える」職員づくりをめざしており、職員相互が学び育ち合えるよう勤務をいろいろと工夫している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年一回、同業者や特養の認知症病棟との交流の場があり、レクリエーションのあり方等を学んでいる。医療、介護、行政、地域のスタッフ間で地域の福祉サービスの情報を共有する場がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地区内の利用者が多い。体験入居や通いを何度か行ったり、沢山の情報を集めて支援策を考えたりと本人が納得した上でサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の献立や散歩、家事、裁縫、野菜づくり等を職員と一緒にしている。伝統料理や皿の置き方、野菜のつくり方等で利用者に教わることも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入後利用者への関わり方や見方が変化し、本人の意向や希望をより把握できるようになった。利用者の表情や言動を注目し参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望や居室担当者の情報、医師等関係者の意見を参考に、利用者の習慣等を取り入れた介護計画が作成されている。説明時には利用者が同席している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議でモニタリングや計画の見直しを全職員で実施している。状態変化や退院後等にも都度見直している。独自の記録用紙があり職員の気付きも反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の医療連携や受診の同行、家族の宿泊等柔軟に対応している。地域の友人や親戚とも連携し、利用者が地域でお茶を飲んだり休憩できるよう細やかな支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は緊急時のみとし、外に出る機会の一つとして受診を位置づけ、「かかりつけ医の顔を見るのも薬」と希望があれば遠方でも同行している。看護ノートも活用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、利用者や家族に意向を聞き、医師体制からくるリスクも率直に伝えながら、最後まで看取る姿勢があることを話している。今までに実績はない。指針は共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時のノックや留守中は居室に入らない等徹底し、排泄時の誘導や失敗した際の更衣も周囲に分からないよう対応している。研修会の事例紹介も配慮して表現している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間等希望に沿ったり、急な散歩や帰宅等にも本人の意向に合わせて柔軟に支援している。利用者は民謡を歌ったりテレビの時代劇を見たりと生活を楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は調理や盛り付け等を職員と一緒にいたり、全員のお茶を用意して配っている。職員は同じ食事を食べながら、タッパー入りの漬物やおからを利用者にそと取り分けていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間でも日曜日でもいつでも入浴でき、毎日のように夜間入浴される方もおられ体制も整えている。入浴嫌いな方にもタイミングや声掛けを工夫しながら誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式の導入で利用者の出来ることや出来そうなことが把握され、生け花や裁縫等行ってもらっている。利用者が気になることは後回しせず、すぐに支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出ることが重要視され、近所や畑までの散歩をはじめ友人宅や馴染みの理美容院等に出かけている。急なドライブや弁当持参の外出、葬式、身内の法事等にも参加している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠するが、日中は誰でも自由に入出りできる。近所の見守りや協力もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警備員が夜間勤務し、火気点検等を行っている。近隣住民との間で防災協力の合意があり、今後消防署との訓練も予定している。レトルト食品等備蓄品も一定確保している。	○	計画している消防署との訓練をはじめ、近隣地域住民との合同訓練を実施して頂きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量が把握され記録されている。利用者の状態に合わせ、キザミ食やお粥にしたり、牛乳の摂り方を工夫している。栄養士に治療食の相談をすることもある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者の気に入ったカレンダーや暖簾、季節の花等が飾られ、お茶もすぐ飲めるようポットが近くにある。利用者はソファや座卓で自由に過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや洋服掛けが置かれ、孫が書いた利用者の似顔絵が貼ってある。自分の好きな歌手の歌や民謡を聴くためにカセットもあり、利用者が気持ち良く過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。